



例題と解説

例題 1

リンゴが12個あります。このリンゴを4人で分けると1人何個のリンゴをもらえますか。

答え 3個

[例題 1 の解説]

数を同じ大きさに分ける計算を「わり算」といいます。

わり算は「 $\overset{\text{わる}}{\div}$ 」という記号^{きごう}を使います。

九九を思い出して考えましょう。

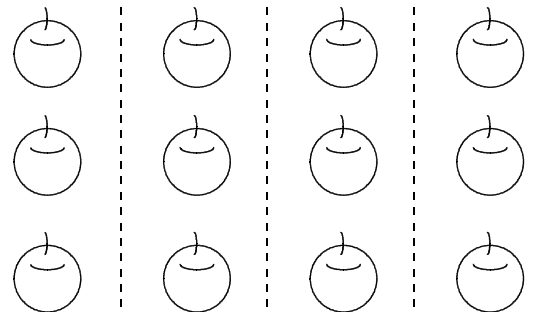
右図のように12個のリンゴを4人で分けると1人は3個になります。

(別解)

1人がもらうリンゴを□個として考えます。

$\square \times 4 \text{人} = 12 \text{個}$ ということです。

九九を使うと $3 \times 4 = 12$ なので $\square = 3$ であることがわかります。





例題 2

□にあてはまる数を求めなさい。

- (1) $30 \div 6 = \square$
- (2) 24は8の□倍です。
- (3) $5 \div 1 = \square$
- (4) $0 \div 2 = \square$

答え (1) 5 (2) 3 (3) 5 (4) 0

[例題 2 の解説]

- (1) $30 \div 6$ は30個のリンゴを6人で分けるということと同じです。
1人がもらうリンゴを□個として考えます。
 $\square \times 6 \text{人} = 30 \text{個}$ ということになります。 $5 \times 6 = 30$ なので □は5であることがわかります。
30の中に6はいくつ入るかと考えても同じです。
- (2) 「24は8の何倍ですか？」というのは「24は8に何をかけたものですか？」ということと同じです。
 $8 \times \square = 24$ ということです。 $8 \times 3 = 24$ なので 24は8の3倍であることがわかります。
わり算で考えれば、 $24 \div 8 = 3$ なので 24は8の3倍だということになります。
- (3) 5の中に1は何個入るかということと同じで、5個入ります。
 $1 \times 5 = 5$ なので^{ただ}正しいことがわかります。
- (4) 0 (ゼロ) はどんな数でわっても0 (ゼロ) です。
そして、どんな数でも0でわることはできません。
 $5 \div 0$ や $3 \div 0$ はできません。答えは0でもなく1でもなく、計算できません。



例題と解説

ポイントまとめ

- ・ 数を同じ大きさに分ける計算を「わり算」といいます。わり算は「 $\overset{\text{わる}}{\div}$ 」という記号^{きごう}を使います。
- ・ 「24は8の何倍ですか？」というのは「24は8に何をかけたものですか？」ということと同じです。
- ・ 0（ゼロ）はどんな数でわっても0（ゼロ）です。そして、どんな数でも0でわることはできません。